



TITLE:

<V>教学IR

AUTHOR(S):

山田, 剛史; 溝上, 慎一

CITATION:

山田, 剛史 ...[et al]. <V>教学IR. CPEHE Annual Report 2016, 2015: 26-27

ISSUE DATE:

2016-03-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/210183>

RIGHT:

V. 教学IR

現在の大学改革においてIR(Institutional Research)への期待が高まっています。2015年6月に策定された「京都大学の改革と将来構想」(WINDOW構想)においても、重点戦略の1つとして「IRを活用した大学運営」が挙げられ、以下のように記されています。

重点戦略4-3

1. 大学の活動から生じる多様なデータをIR(Institutional Research)の手法を用いて活用を図り、エビデンスに基づく教育研究現場の創意工夫を活かす企画・運営を行い、京都大学の持続的発展を支え、独創的な学際学術領域を創成するための組織改革などを推進します。

IRとは、高等教育機関内の調査研究を実施する機能または部門を指し、機関情報を一元的に収集、分析することにより、機関が計画立案、政策形成、意思決定を円滑に行うことを可能にするものです(「京都大学の改革と将来構想」用語集より)。

IRには、大学運営上の様々な領域・対象が存在します。なかでも教育領域におけるIR(教学IR)は、近年急速に注目を集めており、様々な実践が展開されています。教学IRでは、必要(課題)に応じて、教育実践の効果検証や学生の学習実態把握、GPAや成績、単位修得や資格取得などの教務データ、中退や転学部・転学科、留学や奨学金、入試や就職など学生の入学(入口)から卒業(出口)にかかる様々なデータを収集・分析し、エビデンスに基づく組織的な教育改善・質向上を支援することが目指されます。

本学では、まだ教学IRに取り組む体制は整備されておらず、具体的な活動も行われていない状況です。しかし、認証評価でも学習成果測定は強く求められており、また本学の重点戦略の観点から見ても、教学IRを進めていくことが不可欠と言えます。



(1) 授業外学習時間

本学における教学IRに関わる事例の1つとして、学生の授業外学習時間が挙げられます。授業時間外での学習時間の確保・増加は、単位制度の実質化と絡んで喫緊の課題となっています。本学においても、全学共通科目を中心とした教育の改善・充実を図ることを目的に、「2回生進級時アンケート」(2005年～)が実施されており、そこには授業外学習時間も含まれています。アンケートの結果は、国際高等教育院のサイト「点検・評価」(<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/introduction/inspection>)に報告書の形で掲載されています。また、「新任教員教育セミナー」においても結果は報告されており、エビデンスに基づく教育改善支援の1つの活動成果と言えます。なお、セミナーでの報告内容は「京都大学OCW(オープンコースウェア)」(<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja>)に掲載されています。

このアンケートは2回生進級時に行われる1年間の振り返り調査ですが、毎学期実施される「授業評価アンケート」にも授業外学習時間(予習・復習、宿題・課題等を行った合計時間)に関する項目が盛り込まれ(2014年～)、科目ごとに把握できるようになっています。こうしたデータやその他のデータとの関連性を分析・検討し、本学学生の授業外学習時間を増加させる方策を提示することも教学IRの重要なテーマの1つになります。

京大生の授業外学習時間は？

【DATA】 2回生進級時アンケート(平成27年度) *平成17年から開始
 【実施概要】 新2回生を対象にKULASIS(教務情報システム)上で実施(4月)
 【調査目的】 全学共通科目を中心とした京大教育の改善・充実を図る

時 期	学習意欲*	授業出席コマ数/週	授業外学習時間/日
入学当初	4.50	17.10	2.91
前期半ば	3.73	15.65	2.76
後期開始	3.78	14.49	2.64
後期半ば	3.36	13.12	2.72
現 在	4.06	13.84	2.93
全体平均	3.89	14.84	2.79

※[5.非常に意欲あり]～[1.まったく意欲なし]までの5段階評定

算出の仕方が異なるため、単純比較は出来ないが、本調査上では全国平均に比べ、高い授業外学習時間を確認できる

国際高等教育院のサイト「点検・評価」(<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/introduction/inspection>)に報告書が掲載

(2) 今後の展開

本センターでは、第3期中期目標計画において以下のような方向性で教学IRに取り組むことが明文化されることになります。

教育に係るIR(Institutional Research)については、各関連部局・事務部との連携による学習成果アセスメントの開発と実施を通じて、本学学生の学習実態の縦断的把握・分析、高大接続事業や入試改革も含めた全学的な教育改革プログラムの成果検証、アセスメント結果(エビデンス)の可視化・共有、入試・教育・学習改革推進等の支援に取り組む。

特に、企画・情報部企画課に設置されたIR推進室との連携、教学IRに係る体制の整備、ICT活用に関する概算要求事業において新たに組み込まれる学習成果アセスメントの実施を中心に、教学IRを展開していきます。

(山田 剛史・溝上 慎一)